

1. 職員研修

- 教育職の自覚と使命感に生き、児童の自己教育力を育成し、本校教育目標を達成するための研修を推し進める。
- 本年度は、児童の活用力の向上を目指すとともに、自ら考え学び合う力をつけるための実践研究を図る。

2. 本年度の学校研究

(1) 研究主題

自ら考え、学び合う子

(2) 研究主題設定の理由

本校の教育目標は、「よりよく学び 心豊かに たくましく」である。それを受け、児童一人一人の学ぶ力を育て、確かな学力を身につけさせることを教育方針のひとつとしている。本校では、問題解決型の学習を通して主体的に学ぶ力を一人一人につけ、その結果確かな学力を身につけていくことができると考え、実践してきた。

その結果、問題解決型の学習が定着し、その問題に対して一人一人が考えを持つことができるようになってきた。しかし、その個々の考えを表出し、児童同士がかかわり合いながらより高めていくことは、まだ十分ではなく、課題として残った。また、素直ではあるが、自分が学びの中心になっているという意識が弱く、指示待ちで受身の姿勢が見られる。

そこで、主体的に取り組み、児童同士がかかわり合い、高め合うことのできる授業を創り出すことで児童が確かな学力を身につけることができるように願い、主題を「自ら考え、学び合う子」とした。

(3) 研究の構想図（別紙）

(4) 研究の重点

かかわり合いを持つことで、自分の考えや思いが豊かになったり、自分の考えや思いに自信を持ったりすることができる。それが、確かな学力につながると考えた。そこで、本年度は、子どもが『学び合う』ことを大切にして教材研究をしたり、授業を組み立てたりするために「子どもが学び合うための支援」を重点とした。

重 点 子どもが学び合うための支援

	学 習 過 程	支 援
つかむ	「なぜ、～なんだろう」「～はどうなっているのだろう」「不思議だ」「わかりたい」「できるようになりたい」など、問題を追求しようとする意欲を持ち、課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが追求したくなるような問題を設定する。 ・強い解決意欲を引き出せるような問題を設定する。 ・多様な考えが出るような問題を設定する。
考えをもつ	一人一人が、見通しを持ち、自力解決を図る（自分の考えを持つ）。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに合った教材教具を工夫する。 ・適切な範例や基礎となる知識を示す。 ・教材や事象を新たな視点から捉え直す具体的な活動を取り入れる。
高め合う	一人一人の考えを出し合い、自分とは異なる考え方を知ったり、より良い考えに気づいたりする。そして、自分の考えに生かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・わかろうとして聴く、わかってもらおうとして話す子どもたちの意識と力を育てる。 ・個々に出された考えを取り上げ、整理し、かかわらせ、ねらいに迫る。
まとめる	学習内容（わかったこと、はっきりしたこと）をまとめると共にふり返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「～さんの考えを聴いてよくわかった」「考えが変わった」などのようなかかわり合いの学習のよさにも目を向けた学びを意識付けるふり返りを書く。 ・達成感、満足感を味わえるようにする。

このような学習過程は、低学年から高学年までの発達段階に応じたの取り組みが必要である。本年度は、一人一人の考えを出し合い、考えをかかわり合わせることでより高めていく学び合うための支援を研究の中心に据え、ねらいに迫る学習活動の充実に向けて取り組んでいく。

(5) 研究の進め方

【授業研究】

- ①各部会で、研究の重点を具体化するための手だてや工夫を考え、授業実践の中で主題に迫る指導を追求していく。また、各部会を中心に研究授業を行い、交流及び共通理解をし、研究を深める。
- ②研究授業は、全体会授業（低・中・高 各1名）と部会授業で、全員、一人1回は研究授業を行う。
- ③学期ごとに成果と問題点を協議し、全体で共通理解を図りながら研究を練り上げていく。

【日常的な取り組み】

- ①自分の思いを表出できる温かい学級集団づくり
- ②学習の基盤となる学びの土台づくり

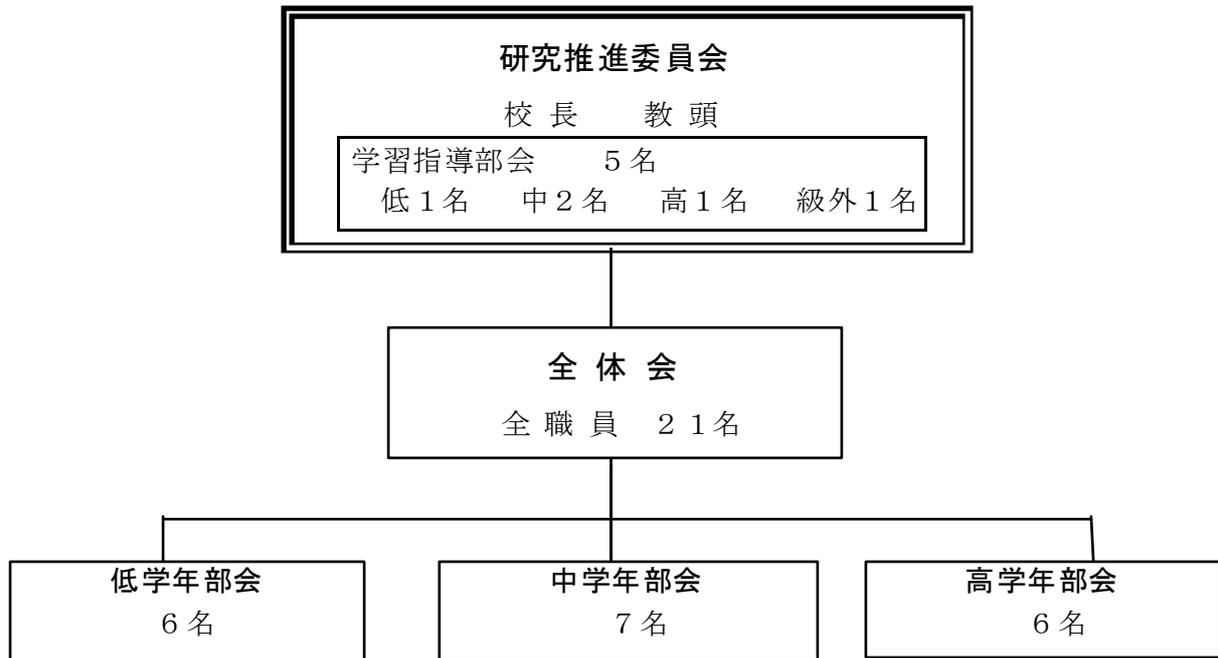
学習の構え	聴く	話す
-------	----	----
- ③基礎基本の定着のための学習（朝自習・家庭学習・パワーアップタイム）
読書活動、読み聞かせ、音読、視写、漢字練習、計算練習 など

＜ 学びの土台 ＞

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
構 え (準 備)	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の準備をしてから休み時間にする。 ・チャイムが鳴り終わるまでに席に着く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の準備をしてから、休み時間にする。 ・チャイムが鳴ったら、すぐ学習を始められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の準備をして、見通しを持って行動する。 ・前の学習の振り返りと今日することの確認をする。
聴 く	<ul style="list-style-type: none"> ・話す人を見て聴く。 ・終わりまで静かに聴く。 ・思いやりをもって聴く。 認める反応をする。 否定的な反応をしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す人を見て聴く。 ・反応しながら聴く。 ・自分の考えと比べながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに反応しながら聴く。 ・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聴く。
話 す	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで話す。 ・みんなに聞こえるように、みんなに向かって話す。 ・最後まではっきり話す。 はい～です。 わたしは～だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさに気をつけて話す。 ・聴いている人が、反応しやすい話し方をする。 ～か。～ね。～しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じて話す。 (音量、速さ、話す順序) ・聴いている人の反応を確認しながら話す。 ～ですね。 どうですか？

(6) 研究の組織と運営

<組織図>



- ・ 校長、教頭と低中高学年部会及び級外からの5名とで研究推進委員会を組織し、研究の推進に当たる。
- ・ 高学年、中学年、低学年部会をもち、授業研究を中心に研究を進める。各部会は、必要に応じて開催する。
- ・ 研究推進委員会での提案を全体会、各部会に提示・協議し、共通理解を図りながら実践研究を進める。
- ・ 研究授業で児童の成長する姿を見て、研究の成果や問題点を探る。
- ・ 事前研は全体会や各部会で行い、授業整理会は参観者全員で行う。
- ・ 日常的に授業を公開し、交流に努める。

* 全体研究授業及び部会研究授業日を行事予定に位置づけ、できる限り集中しないように配慮する。